平成 25 年度事業報告

和歌山市交通まちづくり研究会

「和歌山市のまちづくり戦略と都市間交通網に関する研究」　中間報告

研究会代表 辻本 勝久

（和歌山大学経済学部教授）

和歌山市では、紀ノ川北岸に和歌山北インターチェンジができ、京奈和自動車や第二阪和国道の開通も予定されているなど、高規格道路網が発達してきており、域外からの観光需要等の獲得や、高速バス路線網の発達等が期待される一方で、買い物客等の他地域への流出傾向がさらに強まる懸念もある。

また、和歌山市には南海本線、JR阪和線、JR紀勢本線、JR和歌山線等の都市間鉄道路線や、四国を結ぶ南海フェリーがあり、大きな社会的役割を果たしている。とりわけJR和歌山駅等の主要駅とその周辺の都市機能集積には、コンパクトなまちの中心核としての役割や、観光軸などのハブとしての機能、大阪に流出しようとする県内買い物客をせき止める機能等が期待できる。一方で鉄道・フェリーの利用者数は減少傾向にあり、鉄道の所要時間が延びる傾向にあるなどの問題も抱えている。

さらに、泉州沖には24時間オープンの関西空港があって、LCC拠点化等の新たな展開がなされており、これを活用したインバウンド旅客の獲得等の地域戦略が期待される。

このように和歌山市を取り巻く都市間交通網に様々な変容が見られ、期待と懸念が交錯する中、本研究では「和歌山市まちづくり戦略研究会」での議論を踏まえつつ、あるべき和歌山市の実現に向けた都市間交通網の活用方策や改善方策について考えている。

研究期間は３年間であり、２年目となる平成25年度には「航空網を生かした和歌山市の発展方向」をテーマとした。また、これと並行し、自主研究として「和歌山市総合交通まちづくり計画研究会」を開催した。研究会は後述のメンバーと、多数のオブザーバーの参加のもとで進められ た。日程と報告者・報告テーマは次の通りであった。

5／22　14名

1. 本年度研究会の進め方･内容について

6／19　7名

1.　関西国際空港の現状と成長戦略（辻本　（資料提供は和歌山県庁　永尾氏）

2.　和歌山県・市における関空活用の計画と実績について

（辻本　（資料提供は和歌山県庁　永尾氏）

3. 市経済界における関空活用の取り組み事例について（和歌山商工会議所　中浴氏）

7／13　14名

1. 関空（航空網）を活かした和歌山市の発展方策についてのアイデア出し（各参加者より）

2. 研究対象とすべき国内外中規模都市の交通計画（辻本）

9／27　9名

1. わかやまの観光コンテンツを考える(和歌山社会経済研究所　竹田氏)
2. 航空網を活かした和歌山市の発展方策について～東南アジアイスラム圏との交流についての考察～(和歌山社会経済研究所　田中氏)
3. 豊田市都市・地域総合交通戦略について(辻本)

10／30　13名

1. 和歌山市来訪観光客の県内流動について(辻本)
2. 和歌山市が三次交通の要衝になれば(わかやまNPOセンター　志場氏)
3. 柏市都市・地域総合交通戦略について(経済学部　藤田氏)

11／29　10名

1. 海外観光客による県内観光促進への展開の可能性　航空網を活かして(和歌山社会経済研究所畑山氏)
2. 英国ノッティンガムのLTPについて(畑山氏)

1／17　10名

1. 和歌山県の海外マーケットの可能性(経済学部　上野氏)
2. 今後、関西(大阪市以南)や県内において、ポイントになるような動きについて(紹介)(和歌山県庁　永尾氏)
3. 英国ノッティンガムのLTPについて(2)(畑山氏)

和歌山市交通まちづくり研究会

メンバー：

辻本　勝久（代表）	和歌山大学経済学部教授
藤田　和史	和歌山大学経済学部准教授
上野　美咲	和歌山大学経済学部特任助教
廣岡　裕一	和歌山大学観光学部教授
木下　雅夫	和歌山社会経済研究所常務理事
大門　忠志	和歌山社会経済研究所研究部長
畑山　善生	和歌山社会経済研究所研究部長
中平　匡俊	和歌山社会経済研究所主任研究員
山下　光之助	和歌山社会経済研究所主任研究員
竹田　茉耶	和歌山社会経済研究所研究員

オブザーバー：

永尾　吉賞	和歌山県企画部企画政策局調査統計課主査
志場　久起	わかやま NPO センター理事、事務局長
糀谷　昭治	市民の力わかやま理事
林　秀訓	和歌山社会経済研究所研究員
田中　喜行	神戸大学大学院経済学研究科生
寺岡　紀晋	和歌山大学大学院経済学研究科生
井口　智史	和歌山大学大学院経済学研究科生
宮畑　直弥	和歌山大学経済学部生
宋　謙	和歌山大学研究生

（ 注： 所属・肩書については平成 25 年度時点）